



幼稚園だより

令和6年度
5月号

幸せになりましょう

令和6年4月30日
文京区立湯島幼稚園
園長 前田 宏子

さくらの花が散り、緑のきれいな季節になりました。春の陽気の心地よさを感じている日もあれば、夏日の暑さに汗がいっぱいになる日もあります。春と夏が同時にきているようですが、子どもたちにとっては園庭で遊ぶことを楽しめる季節になりました。気持ちよさそうに三輪車やスクーターに乗ったり、力いっぱい走りまわったりしています。ドキドキしながら通っていた子どもたちも、今では湯島幼稚園の子の顔をして笑顔で登園してきます。少しずつ新しい生活に慣れてきているのではないのでしょうか。

全体保護者会でも少しお話をしたのですが、先日歌手の岸谷香さんにインタビューをする機会がありました。子ども時代のお話からご自分の子育てのお話まで様々なエピソードをお聞きすることができました。その中でも世の中の保護者の方にぜひ聞いてもらいたいと思うお話がありました。

子どもがいる毎日の中で、「子どもには幸せになってほしい、毎日をなるべく楽しく過ごして色鮮やかで豊かな人生を送ってほしい」と思う。(いつもは子どものためにすることが多く)自分だけ楽しいことがあるとちょっと罪悪感すらもってしまう。

しかし、娘さんとのロンドン旅行で考えたことがあったそうです。その旅行ではたくさんの感動があり、感動のあまり涙することもあったようです。ⁱ

(その経験の中で)“そうだ、私も母の娘だった。『私が我が子に望む事、それは母が私に望む事』だ。自分が我が子に幸せになってほしいと考えるように、(自分の親は自分に)「幸せになってほしい」という思いで育てていたことに気付いた。お母さんも幸せな思いをたくさんする、子どもにも同じように、いやそれ以上に幸せを与えられるといいんだ”

このお話を聞いて、子どもだけが幸せになることはきっとできないと思いました。子どもを取り巻く大人たちも幸せであることが必要です。子どもも大人も幸せになる方法を考えていきたいですね。まずは自分が何をすると幸せを感じるのか?大人も真剣に考えていきましょう。子どもたちは幼稚園では楽しいことはないかなあと真剣に考えながら遊んでいます。たまに楽しいことが見付からなかったり、友達とけんかをして悲しい気持ちになったりすることもあります。それを乗り越えていくたくましい心をもって過ごしています。さあ、大人も子どもも幸せになりましょう!

ⁱ 東京新聞「岸谷 香の東京 MY STORY」p136 より抜粋